中等部・高等部

共生学

大石健斗

現代社会は権威主義国家の台頭、気候変動による災害、資本主義による経済格差の拡大とそれに伴う人々の分断が加速する一方である。本学が掲げる性別、人種、障碍の有無を超えた“共生共学”の理念と世界情勢には大きな乖離がみられる。そのなかで共生学が如何にあるべきか。今年度の実践報告の概要をまとめたうえで、今後の展望を示す。

1. 共生学の概要

まず、創立者である羽仁もと子(以下、もと子)は本学を「一つの社会として生き成長しそうして働きかけつつある学校」[1]であると主張した。そのために「われわれは、たしかによい社会を創造り得る。という自信と希望」[2]を生徒たちが抱くために、キリスト教精神を土台とした自労自治を中心に据えた教育実践を展開した。

共生学は、「人と人の共生」「一人一人がかけがえのない存在であるという意味での共生」「人と自然との共生」を実現するために「平和・人権・環境」の三つのテーマを主に取り扱う。

前期は「平和・人権・環境」の諸問題を知り、幅広く学ぶための「講座」が展開され、後期は“大人(教員)”がテーマを設定し、生徒が自身の興味・関心に基づきゼミを選択する「プロジェクト」が展開される。「プロジェクト」においては、前期で得た知見を深めると同時に、ソーシャルアクションを行うことが目的となる。

以上のことから、共生学は本学が掲げる“共生共学”の理念を体現する中心科目であり、換言すると「社会に働きかける学校」を実現する科目として位置付けられる。

2. 講座およびプロジェクトの概説

前述のように、「平和・人権・環境」の3つのテーマにわかれ、前期の講座が行われる。今年度の前期講座は、各学年ごとにグループを編成し、特設テーマとして「対話の時間」において異学年同士で学び合う時間を設けた。そのことで、学年で学びを深め合う時間と異学年で学んだことを「対話」を通して深める両者を担保した。

後期のプロジェクトにおいては、全23プロジェクトが立ち上がり、生徒はアンケートで自分が希望するプロジェクトを選んで、活動に参加した。そのなかで、各プロジェクトがテーマごとに異学年で学びを深める様子がみられた。プロジェクトの概要については、末尾に資料を添付する。

3. 学びの共有会

3月に開催された学びの共有会においては、プロジェクトごとに成果発表を行った。成果発表の形態はプロジェクトごとに異なり、ポスターセッション、プレゼン発表、来場者参加型ワークショップ等の多様な形態がみられた。

そして、生徒・保護者を含む来場者の方々に任意でフィードバックシートを記入していただき、プロジェクトごとに共有した。コメントシートに記入された内容を共有することを通して、これまでの学びの価値・意味付け、振り返り、改善点を見出す様子がみられた。

本学は特色ある教育実践を行う小規模校であることから、容易に閉鎖的なコミュニティと化してしまう可能性もある。このようにプロジェクトを通して多様な方々に学びを共有することそれ自体が、社会に働きかけることでもある。

今後もプロジェクトおよび学びの共有会において、“ソーシャルアクションを通じた学びを多様な人びとと共有し、社会に働きかける”ことを怠ってはならない。

---

[1] 羽仁もと子「それ自身一つの社会として生き成長しそうして働きかけつつある学校」『教育三十年：羽仁もと子著作集第十八巻』婦人之友社、1950 年、23-48 頁。

[2] 同上、23 頁。

4. 今後の展望

もと子は、「おとなも子どもも一つになって、思想しつつ生活しつつ祈りつつ」努め合うなかにおいてこそ、本学のまだ見ぬ新生面が展開されてゆくことを現実にみた[3]。

今後、おとなと生徒が「思想しつつ生活しつつ祈りつつ」努め合い、より良い社会を創造り得るという自信と希望、そして何よりその“実力”を育む科目として、共生学の新生面を展開していく必要がある。

（以下、2025 年度プロジェクト概要）

担当：小川顕
タイトル：古典名作を読む
概要： 自分が生涯学び、育つ環境をどう作り、維持していくか。期間を通して一つ、古典名作とされている文章を図書館で探して読んでもらいます。羽仁もと子著作集を読むことも推奨します。
こんな生徒を求む!!： 「自分にとって少し難解な本を読破することに挑戦したい」という、読書に前向きな姿勢のある生徒を求めます。

[3] 同「新しき歌をうたえ――巻頭の言葉――」、1-3 頁。

担当：真野啓之
タイトル：学校や寮のムダ退治！
概要： 学校や寮で「これは環境に負荷をかけているかも…」と思う場面が色々あると思います。エネルギーや資源の無駄使い、食品ロス、ゴミ問題などなど、皆さんの問題意識によって見え方や捉え方も様々あるはず。少しでも学園を良くする、社会を良くする方法を皆で考えて、アクションを起こしたいと思います！
こんな生徒を求む！！： 自ら動く気概のある人、学園を良くしたい人、社会を少しでも良くしたいと思っている人は、ぜひ一緒にアクションを起こしましょう！

担当：髙田貴
タイトル：学園の木の枝で作ろう
概要： 学園の木の枝を切って、ひもで結ぶだけで様々な形を作ります。小さなオブジェクトからテントの骨組みのようなものまで、色んなものつくりに挑戦したいと考えています。材料と道具が制限されている中で、材料と対話しながら何ができるか、を考えることは、色んな発想を得るきっかけとなるかもしれません。 ＊野外の作業になるので、寒い日もあります。
こんな生徒を求む！！：

失敗を恐れずに、自分からどんどん試してみたい人、大歓迎です。

担当：鈴木佑

タイトル：東京 2050

概要：

前期に学んださまざまな課題や、持続可能性、他者との共生などの問題意識に、「東京の将来」という視点を加えて考える。

こんな生徒を求む!!：

社会問題、環境問題などに関心のある生徒

担当：泉健也、中本理櫻

タイトル：自由学園養蜂プロジェクト

概要：

ミツバチの生態や役割を学ぶことで、自然環境や生態系のつながりを体感。

また、すでに養蜂している学校や地域の方との交流を図る。

＊校外学習の予定があります。市役所など。

こんな生徒を求む!!：

我々も手探りです。ともに 0 から作っていける人を迎えたいです。

担当：中村知子、寺尾恵理子

タイトル：ファッションから考える環境問題

概要：

衣類の生産には多くの環境負荷がかかっています。私たちがまずできる事は、衣服に愛着をもち大切にする事です。ファッションとは何か、自分に合う服装はどんなものか等を一緒に考えてみましょう。着なくなった衣類を生かして、アップサイクル・ファッションの制作にも取り組みます。

こんな生徒を求む!!：

頭で考えるだけでなく、実践を通じた試行錯誤を楽しめる人に向いていると思います。

担当：千葉友貴

タイトル：謎解きを作る

概要：

”謎解き”をテーマとした講座です。最初は謎解きを解くところから始め、徐々に自分たちでオリジナルの謎解きを作っていきます。謎解きを作る過程では、ストーリーづくり・論理構成・デザイン・テストプレイなど、多様な視点や能力が必要になります。メンバー同士の協働や対話を通じて、「相手の考えを尊重しながら課題を解く」という社会に欠かせない姿勢を身につけていきましょう。

こんな生徒を求む!!：

謎解きに興味がある、積極的に参加する意欲がある、メンバー同士で協力しながら制作に取り組める人

担当：濱野稔子、入海英里子

タイトル：WATS2026　逆転世界をつくろう！

概要：

世の中に「あたりまえ」とされていることのなかで誰かが苦しんでいませんか？左利きだと使いづらい道具、異性愛があたりまえの恋愛ストーリー、足の不自由な人が使いたいのに遠い場所にあるエレベーターなどなど。集まったメンバーで対話し、どんな「あたりまえ」を問い直すかを考え、多くの人に考えてもらうためにマジョリティ（多数）とマイノリティ（少数）が逆転した仮想世界―体験スペースをつくれたら、と思います。

＊体験代がかかる場所に校外学習に行くかもしれません。

こんな生徒を求む！！：

「当たり前を問い直したい」「マジョリティ（多数）の特権について、マイノリティ（少数）の人権について考えてみたい」10～20 人集まってくれればと思います。

担当：大畑方人

タイトル：JUSTICE LAB～刑事裁判から考える人権と正義～

概要：

映画やドキュメンタリーを視聴したり、実際の刑事裁判を傍聴したりすることを通じて、えん罪や死刑制度など日本の刑事司法の課題を学びます。人権保障の意義を多面的・多角的に考え、最終的には模擬裁判に挑戦します。日本の刑事裁判をめぐるリアルな問いに向き合い、人権と正義につ

いて自分の考えを深めていきます。

＊東京地方裁判所で、実際の刑事裁判を傍聴します。その際に交通費がかかります。

こんな生徒を求む!!:

正解のない問題に挑戦し、自分の意見を持ちつつ他者と議論できる生徒。人権や裁判の仕組みに関心を持ち、探求心と柔軟な思考で新しい視点を見つけたい生徒を歓迎します。

※すでに公民分野を学習した中3・高1の受講を推奨します。

担当:咲花昭嗣

タイトル:“ルッキズム“はどのように生まれ語られてきたか

概要:

人間の「外見」は、どのように作られ、評価されてきたのだろう。女性・男性それぞれのファッション、ボディメイク（身体・肉体）、美容などの歴史・文化と社会的背景を合わせて考える。

こんな生徒を求む!!:

自分たちだけでワークを進める週が複数回あるが積極的に参加することが条件になります。

担当：中川李梨子、犬塚夏紀
タイトル：つながるラボ
概要： 日本にあるユニークなコミュニティ(人のつながりの場)を探し、出会いながら、理想のコミュニティを想像する。
こんな生徒を求む!!： 学園の幼、小、中、高、大のつながりに興味がある人。

担当：山岸稜、斎藤凛太朗
タイトル：パブリックアートについて考える
概要： 社会と関係する公共のアート作品（パブリックアート）について、現代に求められるアートの形を対話を通して考えよう。 ＊屋外彫刻などを見に行くため、校外での活動が入る可能性あり
こんな生徒を求む!!： 街中の銅像、絵画、彫刻に目が止まる生徒、人とアートの話がしたい生徒を求めています。

担当：橘隼人

タイトル：これからの男の子たちへ vol2

概要：

これからの男の子たちに向けてゼミ形式で授業を行う。書籍や映画、テレビ番組など様々なメディアに触れながら、有害な男らしさやホモソーシャルについて学び、これからの社会にどのような男性が必要なのかを考える時間にしたい。授業には専門家の方にも来ていただき直接講義をしていただく予定である。また合同ゼミや対話の会を催し、男子目線だけにならないような場も設けたいと考えている。最終的には自分たちで 1 コマ分の授業をデザインし、中 1 や初等部に授業を展開するところまでできれば良いと考えている。

＊一人 1 冊『これからの男の子たちへ』（太田啓子著、大槻書店、2020 年）の本を用意してもらいます。毎回の授業でグループ毎に発表をしてもらい、リフレクションを行います。

こんな生徒を求む!!：

オープンマインドな姿勢を持ち、対話をしながら授業をしたい人。部活やクラス、寮などの男子ノリが好きな人 or そのようなノリに違和感や生きづらさを持っている人。ジェンダーや多様性、男女の共生に興味がある人。本気で学びたい人。

担当：岩本晃子
タイトル：難病当事者とつくる共生社会カフェ：多様な“あたりまえ”に出会う体験
概要： 卒業生で難病当事者の坂井田真実子さんと共に、様々な難病当事者の「過去と今」を学び、人権に関する「あたりまえ」が揺らぐ体験（目隠しや車椅子など）をします。「五感」を通じて社会のバリアを実感し、気づきを深めます。その学びで「共生社会カフェ」をオープン！ また、写真や詩、手話での歌唱といった多様な方法で表現し、社会に発信。 ＊校外学習に数度行く可能性あり
こんな生徒を求む！！： 「その“ふつう”、ほんとにそう？」と思ったことがある人。 目かくし、車いす、手話、詩――ことば以外でも伝えたい気持ちがある人。 見えないバリアに気づいて、ちがいをおもしろがれる仲間、集まれ！

担当：義本五月、佐伯美和
タイトル：個性を認め合う世界
概要： LGBTQ や障がいを持つ人々の暮らしについて考え、個性を認め合う必要性を考えます。 その中でスポーツ参加についてもふれていきます。   ＊対話を大事にしたうえで他者理解を大事にしていきたい。SNS での誹謗中傷なども。
こんな生徒を求む!!： テーマについて元々興味がある、これから詳しく知っていきたいという方大歓迎です！

担当：松坂政広、星佳輝
タイトル：対話ができる自由人
概要： 「対話ができる」が自由であり平和である、という視点に立って、日常生活で対話ができることを検証します。討論が、自分が正しくて、相手が間違っていることをはっきりさせるものであるのに対して、対話とは、話し合った結果、自分が変わることを楽しみにするもの。日常で折り合いをつける必要がある事例（意見や利害が対立する状況で、互いに譲歩し合って合意点を見つける必要がある場合）をいっぱい集めて、その中で、対話が成立するかを検証していきます。ついつい討論をしがちなわたしたちが、対話をして、自由を、平和を実感できたら幸いです。 ＊前期の「してよかった喧嘩」の延長として対話が必要な事例を考える。
こんな生徒を求む！！： 本当に、対話ができるようになりたい！ と希望する人の参加を望みます。

担当：嶋田康則、馬籠哲平
タイトル：平和とコミュニケーション
概要： エンカウンターなどを通して、楽しくコミュニケーションを学びます。
こんな生徒を求む!!： コミュニケーションに磨きをかけたい人。世の中には様々な人がいるということを学びたい人。

担当：近藤紫織
タイトル：わたしたちの平和アーカイブ
概要： 学校に残る戦中の資料や戦中・戦後の声（資料）を読み取り、ナレーション・編集で動画にまとめ、平和の声を未来へ届ける学内外プロジェクト。
こんな生徒を求む!!： 「戦後 80 年、と聞くけれど自分にできることは何だろう？」こんな思いを持ったことがある人を求めます。資料を読み解き、インタビューをし、動画にまとめていく作業を学年関係なくチャレンジしたい人も大歓迎です。

担当：五十嵐司

タイトル：沖縄を犠牲にした日本の「平和」とは？～観光地としてではなく、今も戦争の名残と戦う沖縄について考えてみよう～

概要：

沖縄と聞くと最近ではジャングリアなどの商業施設が開設され、リゾート地としての印象を持たれる方が多くいると思います。しかし、そんな沖縄は今も普天間飛行場や沖国大のヘリ墜落事件、化学物質 PFAS など、米軍との関わりの中で生じる多くの問題を抱えています。ここには 1960 年に締結されて以降、一度も改定されていない日米地位協定が大きく絡んできます。本プロジェクトでは、日米地位協定の基礎知識を学んでいくとともに、我々が目をつぶっている沖縄の諸問題について、それぞれでテーマを設定して学んでいきます。

こんな生徒を求む!!：

「とにかく沖縄が好き」「米軍と日本の関係を知りたい」「かりゆしシャツを着たい」「みんなで学びあいたい」

そんな方をお待ちしています。今、何かを知っていることよりも、これから一緒に知っていきたいという人を歓迎します。

担当：森田良平

タイトル：ゴルフが教えてくれる『平和マインド』

概要：

ゴルフの歴史やルールなど他のスポーツとの違いを含めた特徴を学び、ゴルフというスポーツがいかに平和と繋がりのあるものかを考える。（自身の平和・他者の平和・社会の平和・世界の平和という観点から）また、実際にゴルフを体験してみることで当事者としてより深く平和について考え、『平和マインド』をさらに固めていく。・参加したい理由を適切に表現できるか

＊クラブを持っている方は持参してもらう場合もあります。（持っていなくても参加可能）

こんな生徒を求む!!：

実際にゴルフを体験することもありますが、ゴルフの歴史や特徴なども学ぶため座学をする時間も多くあります。ただゴルフがしたいというだけでなく、ゴルフを通して「平和」について学びたい。そんな『平和マインド』を持っている方を求めます。

担当：竹上尚子、屬希美
タイトル：平和を考える―自由学園と武蔵野地域の歴史から学ぶー
概要： 後期は、学園周辺地域を主軸に、戦争の歴史を学び、考える機会にしたい。 平和を考える際、事実を知り、学ぶ姿勢をもつことが大事と考える。数年間集めてきた資料やつながりをもとに皆で学び、対話していきたい。 最終的には、小学生にも伝わるような分かりやすいプレゼンを作り、実際に伝えられたらよい。
こんな生徒を求む!!： 学園があり、学園生も多く暮らしている武蔵野地域で起きた戦争の歴史について学びたい人。知り得たこと・学び感じたことを”ワタシゴト”として、伝えるための活動に興味がある人。

担当：山田恵子
タイトル：スポーツで繋ぐ世界
概要： スポーツを通して平和を考える。東京開催のデフリンピックや、ピエール　ド　クーベルタンユースフォーラム等から学び、平和を創る身体活動を考案、実践する。
こんな生徒を求む!!： スポーツを通して、人と繋がる喜びを共有し、平和を創り出そうとする意志のある人。

担当：大石健斗

タイトル：The Personal is Political～個人的なことは政治的なこと～

概要：

個人的なことは政治的なこと。この言葉に込められた意味は何か、そしてどのような社会が個人的なことを政治的なことにしうるのか。フェミニズム思想を中心に、現代社会および教育(自由学園を含む)を捉え直していきます。教材としては『虎に翼』等のドラマを使用する予定です。そのうえで、新たな社会・教育の在り方を提言することを目的とします。

＊授業の進み具体によっては、授業時間以外の時間にも補講や自由参加のフィールドワークを実施する可能性がありますので、ご承知おきください。

こんな生徒を求む!!：

知的好奇心が旺盛な生徒を歓迎します！